

号外

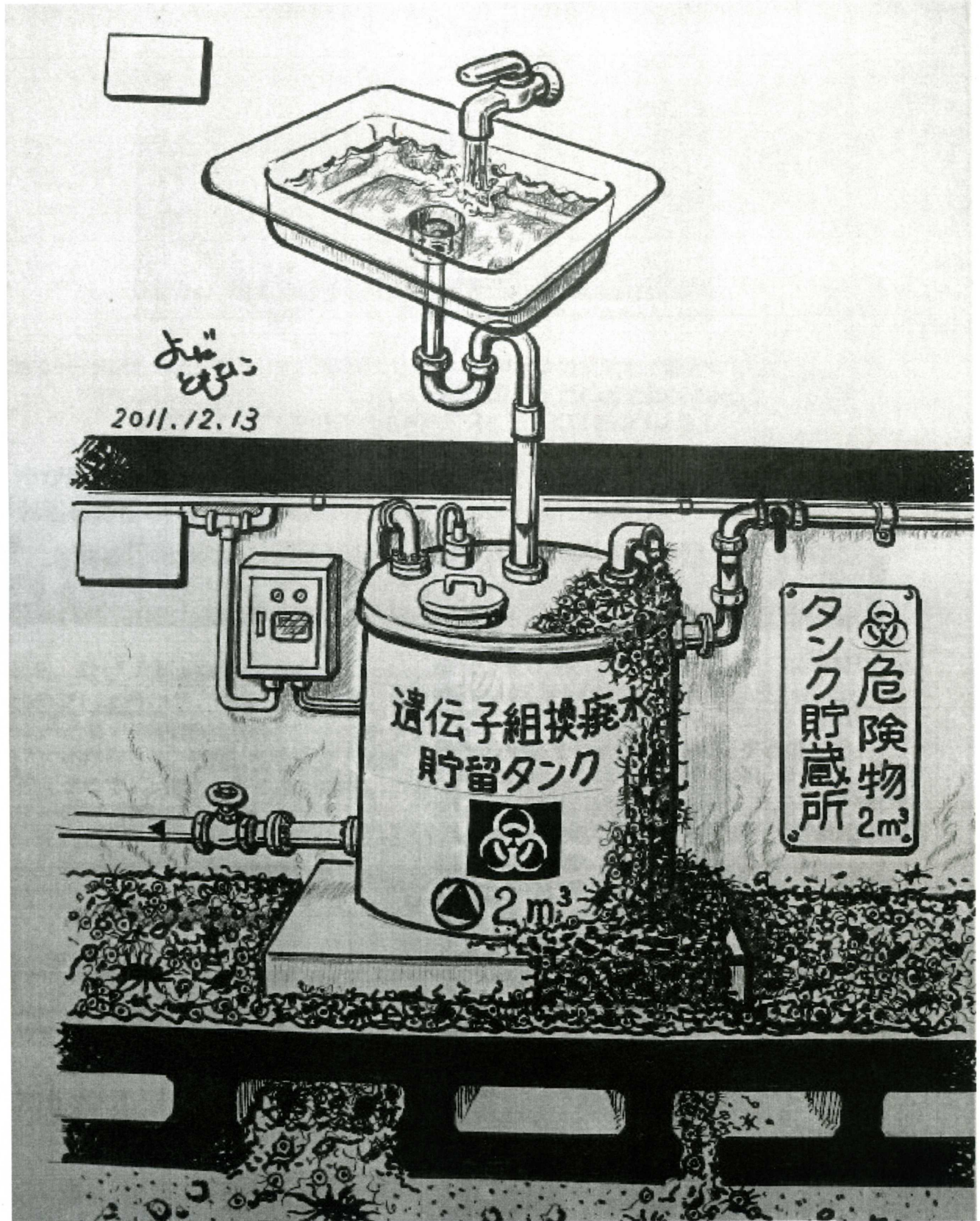
安全って、本当ですか？

武田薬品湘南新研究所を問う！

2011/12/15

(発行): 武田問題対策連絡会 <http://www.shounan.biz/090-6317-5547>(小林)

武田で遺伝子組換え生物漏出事が発生！



(このイラストはよしだともひこ氏のイメージによるものです)

武田薬品湘南研究所、本格稼働1ヶ月もたたない内に 重大事故発生 —遺伝子組換え実験廃水を漏出—

武田薬品湘南研究所は、11月から本格稼働を開始したが、1ヶ月も経たない11月30日未明、遺伝子組換え廃水1 m³をタンク外に漏水させるという重大事故を発生させた。

＜遺伝子組換え廃水漏出事故の概要＞***文科省報道発表（12/2）

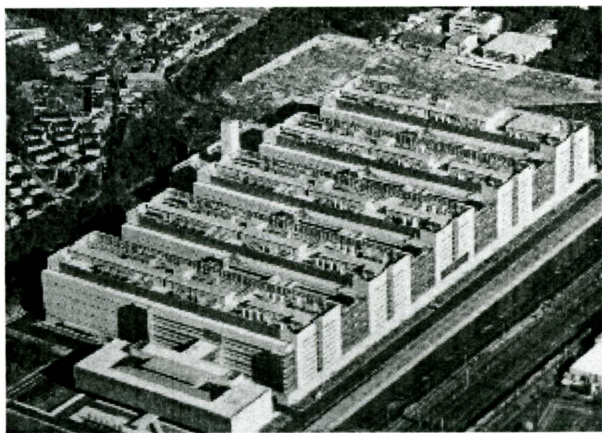
武田薬品(株)湘南研究所（神奈川県藤沢市・鎌倉市）に於いて、11月30日午前1時から7時の間、水道水を止め忘れたことから、廃水を貯蔵している廃液タンクから、遺伝子組換え大腸菌、バキュロウイルス及びサルモネラ菌を含む廃液を施設内に漏出させた。

武田研究所では、4階の実験室からの遺伝子組換え排水を、1階の廃液タンクに流す方式となっており、今回の事故は、4階の実験室から大量の水道水が6時間もの間1階の廃水タンク（容量2 m³）に流れ込んだため、1 m³もの遺伝子組換え廃水がタンクからオーバーフローし、1階の床全面を水浸しにすると同時に、1階の配管用の穴を伝い、地下階の床面にも廃液がしみだしたものである。

＜文部科学省の対応＞

11月30日、武田から連絡を受けた文部科学省は、

- ① 12月1日に、職員を派遣して現地調査を実施し、施設内に漏出して回収された廃液及び漏出が認めら



(この写真は武田薬品のパンフレットから転載しました)

れた床面については、次亜塩素酸ナトリウムによる不活化措置が執られていることを確認。

- ② 遺伝子組換え大腸菌、バキュロウイルス及びサルモネラ菌を含む廃液は、法令に基づきP1レベルの拡散防止措置が必要なものであり、こうした廃液が研究所内で漏出したことは不適切である事を指摘。
- ③ 床面以外の設備への飛散の可能性について、更に詳細な調査を行い、必要に応じて不活化等の措置を執るとともに、その結果及び原因究明と再発防止策を講じることを指導したと発表した。

＜市当局、地元住民への通報の遅れ＞

武田薬品は、12月1日、文科省の立ち入り調査が終わってから、藤沢、鎌倉両市に事故の報告をした。この報告を受け、市当局並びに「連絡会議」メンバーである近隣町内会役員が事故現場を見に行った。

今回のような重大な事故の通報は、11月30日（水）当日朝の段階で、まず最初に、両市環境部と地元住民に広く知らせることが企業としての最低限の常識であり、基本であるべきである。

＜お知らせ＞

今回の号外は、すべて文科省の現場調査報告、藤沢市環境保全課担当者の聞き取り調査及び藤沢市議会の資料に基づき作成しました。これに対し、12/12に発表された長谷川社長の報告書には随所に食い違いが見られました。これらの相違点については、徹底的に解明し、次号で発表する予定です。

＜武田問題対策連絡会代表 小林麻須男＞

